

## ⑦ 管理栄養士・栄養士

管理栄養士・栄養士は、日常生活を営む上で基本となる食事について、適切な栄養摂取といった観点から、助言を行います。

ステップ	専門職としての視点、具体的な確認や推察の内容
事例の理解と確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食事摂取状況、排泄状況、服薬状況、病識の有無、自立意欲、家事能力と意欲、身体状況と機能向上、介護者の状況、生活歴と生活状況、金銭面等について確認する</li> <li>・ かかりつけ医による栄養上の意見や、病院での栄養指導の内容を確認する</li> <li>・ 栄養に関わるキーマンを確認する</li> <li>・ 食事環境で支障はないかを確認する(孤食による食欲低下、衛生環境、台所の機能性、買物の状況、家族関係、支援者等)</li> <li>・ 閉じこもり傾向や活動低下がみられる場合に食生活の状況を確認する</li> </ul>
課題の明確化と背景要因の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本人の状態・状況に合わせた食事摂取がおこなわれているかを確認する(病状、服薬状況、食習慣、認識、身体状況、摂食状況等)</li> <li>・ 低体重だけではなく、疾病の重症化予防、過体重や栄養の偏り、不足による活動性低下の予防も検討する</li> <li>・ 栄養面だけでなく、生活全般からみて、活動性の向上につながる項目をみつける</li> </ul>
目標と支援内容の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 栄養状態が改善することにより、意欲向上につながる可能性を検討する</li> <li>・ プラン作成担当のプラン目標に合った個別プランが立てられているか、栄養状態の改善につながる目標になっているかを確認する</li> <li>・ 栄養及び食生活の視点から、介護予防や疾病の重症化予防につながるかを確認する</li> <li>・ 本人が実行可能な短期目標を設定しているか確認する</li> <li>・ 他職種が関わるサービスに、食に関する支援の項目がある場合、本人の状態に合わせた内容になっているか確認する</li> <li>・ 本人の意思を踏まえ、負担にならないよう食生活の設定を検討する</li> </ul>
実践につながる助言のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ かかりつけ医だけでなく歯科医師や薬剤師等とも連携し、栄養面だけでなく、生活全般を踏まえた視点で助言する</li> <li>・ 食事や体調のコントロールを本人や家族で行うことができるよう助言する</li> <li>・ 目標達成に向けた行動変容を導くためにも、短期間で出来る目標を設定し、達成感を得られる工夫をする</li> <li>・ 本人や家族に、栄養改善の必要性が受け入れられなかった場合、本人や家族が理解できそうなポイントを助言する</li> <li>・ 栄養士の介入がない場合、他職種の介入時に行ってほしい助言を提案する</li> <li>・ 栄養支援に関する地域資源が近隣にない場合、地域課題として検討する</li> </ul>